

加茂名南小学校では、小学校高学年における教科担任制を導入しています。専科による指導や、学級担任間の授業交換を行うことで、教科指導の専門性を生かした指導の充実をめざしています。

小学校の
「学級担任制」の課題



『個業』に陥りがち
になること

- ★業務負担に「偏り」ができ、仕事を抱え込んでしまう教員が存在する。
- ★仕事に対する個人的な「こだわり」が、長時間勤務につながりやすい。
- ★学級の実態（児童の様子）が「外」から見えにくい、閉鎖的な空間になってしまう。
- ★他の教員の優れた授業・指導を「見て学ぶ」機会が少ない。



導入の効果

- 同じ学年の担任の助け合いにより、業務の平準化が図られている。
- 同じ内容の授業を、他の学級で繰り返し行うため、授業力の向上につながる。
- 授業準備が効率化され、授業・教材研究に注力することができる。
- 複数の教員が、互いの学級の児童のよさを見つけて伝え合う習慣ができた。
- 若手教員にとっての、ベテランの指導を見て学ぶ環境づくりができた。

先生の声

- 自分の苦手な分野の指導方法を、他の教員から「見て学ぶ」ことができる。
- 同学年の担任が協力する姿を見て、子供達も協力の大切さを学んでいる。
- 本校で教科担任制を経験した先生が、そのノウハウを生かし、異動した学校で教科担任制を導入している。
- 担任間で授業交換をすることから始めてほしい。



児童・保護者の声



【児童】

- 色々な先生が関わってくれるから授業が楽しい。
- より専門性の高い授業を受けることができ、より詳しく学べるため、学力が上がった。

【保護者】

- 教科担任制を小学生の時に経験しておく、「中1ギャップ」を感じにくいようだ。